



Japan America Society of Greater Philadelphia

第5回フィラデルフィア・日本健康科学ダイアローグ

製薬産業の再考：世界的見地から

2004年2月5日(木)

会場：フィラデルフィアユニオンリーグ

午前 8:00

受付・朝食

午前 8:30～午後 5:00

プログラム(昼食を含む)

午後 5:15～午後 6:00

カクテル・レセプション

プログラムの概要

アメリカ、日本、ヨーロッパにおける製薬産業の経済は、政府の政策とあいまって拡張と縮小を同時に起こしている。研究開発にかかる莫大な費用と社運に関わる重要な薬の発見の必要性は、大きな製薬会社の間で合併または経営方針の再考をうながしている。世界規模での政府による薬の価格設定に対するコントロールは利益幅の縮小を起し、そのため弱小企業は合併を余儀なくされている。その一方、資金のある投資専門組織とバイオテック研究に対する政府の好意的態度は、莫大な数の新企業を製薬業界に次々と誕生させている。これは何をいったい意味するのか？ 各界におけるリーダーがその質問を今回検討する。

開会の挨拶

在ニューヨーク総領事館首席領事 福川 正浩
ペンシルベニア大学戦略課 レス・ハドソン

午前の基調演説

三共株式会社 取締役 グローバル R&D 担当 ジョン C. アレキサンダー

パネルディスカッション：製薬業界の動向に対する投資者グループの見方

サンフォード・バーンスタイン社 シニアバイオテクノロジーアナリスト ジェフリー・ボージス
キャピトル・インターナショナル・リサーチ社 エグゼクティブVP フィル・ロウ
ベア・スターンズ社 シニアマネージング・ディレクター メアリー・タナー

午後の基調演説：研究開発に関する再考

グラスコスミスクライン社 世界開発 R&D 部門シニア VP ロナルド・クローラ

パネルディスカッション：製薬産業再編に対する政府の大きな影響力

グッドウィン・プロクター社 アソシエイト ゲーリー・クーパー
ジェトロ ニューヨーク 健康福祉課 ディレクター 三浦明
米国食品医薬品局 (FDA) 計画部アシスタント・コミッショナー テレサ・マリン

バイオ・テック企業の激増 - 未来への動きか？ それとも完全なる狂気なのか？

クエーカー・バイオ・ベンチャー社 マネージングパートナー ブレンダ・ガビン

「フィラデルフィア・日本健康科学ダイアローグ」とは・・・

2000年3月に第1回が行われたこのセミナーは、日米両国のヘルスケア業界関係者、及び学術研究者を招き活発な意見交換をすることで、両国に存在するヘルスケアの問題点、また可能性について意識を高めることを目的とし年1回開催されている。